

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070402211
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里白銀
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区白銀1丁目2番7号 (電話) 093 - 922 - 6003

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月27日

【情報提供票より】(平成21年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 8階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)13,650円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(6年間)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会大手町病院 / 小倉記念病院 / 司城歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム白銀は、小倉都心部の国道3号線沿いの白銀バス停近くのマンション1階に位置している、(株)ウキシロケアセンターの事業所の1つである。事業主体である(株)ウキシロケアセンターは、白銀を含め「いこいの里」として4つのグループホームを運営し、その他に住宅型有料老人ホーム・介護付有料老人ホームも運営し、高齢者ケアにおける経験と実績を確立している。ホームは小倉の街なかの利便性が高い環境を有し、商店街や公園・官公庁に近く、日頃の散歩や買い物・地域交流など街なかならではの楽しみを提供している。当ホームでは特に自立支援に力を入れ、大きな特徴として入居者の生きがいづくりも積極的に取り組んでいる。その生きがいづくりは、新年会・運動会・温泉旅行・いこいの里祭り・餅つき・忘年会など多岐にわたっている。また、健康管理や医療支援も同法人の「いこいの里若園訪問看護センター」との連携により充実し心身の健康維持を図り、入居者が安心して過ごせる体制を整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の評価の課題である「思いや意向の把握」では、アセスメント用紙を工夫し、介護計画に反映するなど改善している。地域との交流や災害対策や重度化・終末期の取り組みについては継続課題として現在も取り組んでいるところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアやサービス提供において振り返りができ、職員の意見交換や提言による改善策に結びついている。今回の評価についても例年通り、ケアやサービス向上の材料として活かしていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。主に事業報告を行い、参加者からの意見をサービス向上に活かしている。今後は、災害時の対応やボランティアの活用・職員の地域貢献などもテーマとして話し合っていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情相談窓口については入居時に本人・家族に説明と同意を得ている。意見箱の利用や家族の運営推進会議への出席・市の介護相談員の訪問などにより、意見や苦情を吸い上げる取り組みを行っている。職員は家族の来訪時に要望や意見をうかがい、必要時には検討し改善するなど運営面へ反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域活動への参加を希望しているが、余り活発な活動を行っていないので、ホームとしては、小倉祇園太鼓の演奏や花火大会・商店街への買い物などで地域交流を図っている。今後は更にホームの特性を活かし、小さな関わりから地域住民の交流を広げていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「家庭の延長線である施設」「自分の親だったらどうするか」という介護理念のもと、「介護を通し真の人間性を追及することにより社会に貢献する」を理念に掲げ、地域との連携を社会に含まれているものとして独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念はリビングに掲示しており、毎日のミーティング時に唱和している。また、ホーム内の新人教育に理念を取り入れ、その機会に新人担当職員も理念を共有し、日々のケアの実践に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており、地域活動への参加を希望しているが余り活発な活動を行っていないので、ホームとしては、小倉祇園太鼓の演奏や花火大会・商店街への買い物などで地域交流を図っている。今後は更にホームの特性を活かし、小さな関わりから地域住民の交流を広げていきたいと考えている。		公民館での行事に参加していたが、事情により現在は参加していない。関係者との連携を図りながら、少しずつ地域の理解を育むためにも、積極的な情報発信等にも期待したい。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアやサービス提供において振り返りができ、職員の意見交換や提言による改善策に結びついている。今回の評価についても例年通り、ケアやサービス向上の材料として活かしていきたいと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。主に事業報告を行い、参加者からの意見をサービス向上に活かしている。今後は、災害時の対応やボランティアの活用・職員の地域貢献などもテーマとして話し合っていきたいと考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村との連携は、入居者のサービス向上につながる ととらえ、個別的な支援の情報提供や助言・指導を受 けるなど市担当職員や地域包括支援センターの職員と の連携は充分に行っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町村とともにサービ スの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度を活用している方がおり、権利擁護センタ ーとの連携により、必要な入居者にはいつでもサポ ートできる体制を整えている。新たな入居者や家族にも説明 しており、活用を積極的に支援している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、必要な人には、それら を活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族への報告は毎日の状況と1ヶ月の生活状況をまと め、写真と共に毎月発行・送付している。同時に金銭 管理についても書類を同封している。職員は家族の来 訪時に対して状況報告や意見をうかがい、生活支援に 反映させている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定期 的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情相談窓口については入所時に本人・家族に説明 と同意を得ている。意見箱の利用や家族の運営推進 会議への出席・市の介護相談員の訪問などにより、意 見や苦情を吸い上げる取り組みを行っている。職員は家 族の来訪時に要望や意見をうかがい、必要時には検討 し改善するなど運営面へ反映している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内の異動については本人の希望もあるが必要最 小限に心がけている。離職は少ない方だが異動や離 職時の配慮としてサービス低下とならないように余剰人 員を配置し、入居者のダメージを防ぐように取り組んで いる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員によ る支援を受けられるように、異動や離職を必要最 小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へ のダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用は法人主体で行っており、特に制限はないが 向上心がある方の採用を希望している。現職の職員が 専門性を活かして勤務でき、その成果や努力が報われ るよう管理者として心がけている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあた っては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない ようにしている。また、事業所で働く職員についても、その 能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自 己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	月1回のミーティングや法人での社員ミーティングで人権尊重の話し合いや教育を行っている。法人として虐待委員会を設置しており、研修や実践報告による自己啓発ができるシステムを整えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会や近隣の病院・地域包括センターなどの研修や勉強会にできる限り参加している。また、月2回のミーティング時に研修や勉強の機会を作り、同僚との学びの機会も大切にしている。外部からの研修テーマは常に掲示し、参加を希望する職員は参加時の勤務調整などを行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、職員と共に研修や勉強会に参加するなど、常に同業者とは交流を図っている。また、管理者として協議会運営に参加しており、それにより情報交換や意見交換の機会を得て、お互いのホームのサービス向上に役立っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居希望者には自宅へうかがい、本人・家族の要望や質問をうかがいながら信頼関係を築くように努めている。ホーム見学も入居希望者にとってのステップとなるので家族と共に相談しながら本人へのより良い対応を工夫し、安心して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は常に声かけをしながら、共に楽しく暮らせるように支援しており、洗濯物の整理や食事準備・テレビ鑑賞・何気ない会話など、入居者のこれまでの暮らしの習慣や過ごし方を尊重している。日々の暮らしの中で職員は、季節の衣類の入れ替えや身の回りの必需品の購入などコミュニケーションを図りながら、入居者と共にある暮らしに取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>管理者は、入居者一人ひとりとの対話の時間を設け、本人の希望や要望をうかがうようにしている。また、家族からの要望も大切にしており、入居者同志の会話に耳を傾けることで思いを知るなど、その時々入居者の様子を記録し、職員全員が情報を共有し日々のケアに活かしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成にあたっては、職員全員でのミーティングや本人・家族との話し合い、かかりつけ医の意見などを反映し、具体的なサービス内容になるように心がけている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画にそった支援の実施状況を把握する共に、半年に1度は要望や状況変化がないかを職員全員で検討している。計画変更が必要な場合は、現状に即した計画を作成している。介護記録等が詳細に記載されているが、記録の整理が業務改善につながると考えられる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人全体の交流会や1泊旅行への参加・近隣の保育園児との交流・誕生日の外出など、外部とのふれあい・交流の機会を設け、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。通院についても家族同行が原則であるが、希望があれば有料にて支援している。医療連携による医師や看護師の健康管理も行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>大手町診療所のかかりつけ医と常に連携を取っており、24時間の対応ができています。月2回の訪問診療・専門医の受診も支援している。家族へは診察の内容についての連絡を行い、健康管理や疾病予防に関して安心していただけるように取り組んでいる。</p>		

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本年度11月より、同法人の「いこいの里若園訪問看護ステーション」との医療連携を強化し、健康管理や看取りについて対応指針を整備している。今後は看護従事者との勉強会を持ちたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報・プライバシーについては日常生活支援での対応に配慮し、また部屋に表札などの氏名を記入せず、花の名前を部屋の名前に採用するなど工夫している。書類の管理も玄関横の事務スペースの書棚で保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の生活習慣や心身の状況に合わせた生活支援を基本とし、本人のペースを配慮しながら、職員が入居者のペースに合わせる勤務内容の調整を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材の買物は入居者とドライブを兼ねて出かけている。職員・入居者が一緒に食事をし、食事介助が必要な入居者も一緒に食べることで食欲が増進するなど、食事の時間を大切にしている。キッチンとリビング・食堂がオープンになっており、常に調理している姿が視線の中にあるので、入居者は家庭的な環境の中で食事を楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日を週3回、設定している。入居者には、週2回は必ず入浴していただくように支援している。入浴は、入居者の性格を考慮した声かけや支援でスムーズに支援できている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	昼食前には全員でラジオ体操・リハビリ体操・口腔体操を行っている。午後はゆっくりとソファに座ってコミュニケーションを取ったり、ティータイムには時としてテーブルを駐車場に出し、日向ぼっこを兼ねて気分転換を行っている。活動的ではない方も一緒に歌を歌ったり、職員は一人ひとりの楽しみを見出し支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	職員と一緒に好きな物をコンビニやスーパーに買いに出かけている。天気の良い日には散歩に出かけたり、勝山公園までドライブを兼ねて出かけたり、「いこいの里」グループ全体で1泊旅行に参加したり、社会との接点・交流の機会を多く持てるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	朝7時から20時まで、玄関は施錠していない。感知センサーも設置しているが、日中は職員の見守りで対応している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的に年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導・点検を受けている。去年の風水害時には職員の協力が早急にできたが地域の協力は必要であり今後の課題と考えている。		消防署の施設整備の点検や避難訓練後の指導などを定期的に行っているため、その内容を職員や運営推進会議で検討し改善していくことが重要である。また運営推進会議を活用し、地域との連携についても継続して働きかけて欲しい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立表は法人の3つのグループホームで1ヶ月単位で作成し共有している。調理担当職員は入居者の状態に応じて材料や献立を工夫している。栄養状態に関しては、体重測定や検査データのチェックを行い、水分摂取については食事以外に支援し必要量を確保している。		栄養士による専門的なアドバイスは受けていないとのことであるが、健康管理のためにも、1度チェックすることが望まれる。また、職員が食事を食べての感想なども記録すると食事支援に効果があるのではないかと考えられる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いこいの里 白銀

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関を入ると広いリビングや食堂・キッチンがオープンに配置され、それを囲むように居室などが設定され掃除も行届いている。バリアフリー構造で安全面が配慮され、自動換気装置が設置されているが毎朝全室の窓や玄関を開放し、居心地よく過ごせるように取り組んでいる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は表札をつけずに花の絵を目印に認識を促している。ベッドとエアコン以外は、入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただき、これまでの暮らしが継続できるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			